

“時事英語—アフリカと日本の絆”通信

第41回 柴崎学習館“すわっ祭”オープンクラス
東京外国語大学 現代アフリカ地域研究センター
センター長 武内進一教授をお迎えして

NO. 6

2018年7月1日発行

アフリカと日本の絆(CCAJ)

<http://ccaj01.stars.ne.jp/>

TEL: 042-531-1887

(代表 熊田)

1: 大切なお知らせ、団体名称の変更について

2000年設立の立川イングリッシュチャットルームは、2017年12月に、活動の充実および目的の明確化のため、名称を「時事英語—アフリカと日本の絆」に変更しました。

2: 東京外国語大学 武内進一教授のオープン講座「アフリカの人々と暮らし」について

5月19日(土)に開催されたすわっ祭のオープンクラスは、東京外国語大学 現代アフリカ地域研究センターのセンター長である武内進一教授をお迎えしてオープン講座を開いて頂きました。講座は1時間の講義と30分の質疑応答で、約25人の参加者は、メディアでは得られないアフリカの魅力と実状について優しく語られる先生のお話しに、皆さん一様に心奪われているようでした。

先生のお話しは、主食に用いられるキャッサバという食材から始まりました。「食事がおいしいこと」、「女性がよく働くこと(それに比べ、男性があまり働かないこと)」など、身近な分かりやすい事柄に続いて、アフリカの紛争の原因などを、歴史的な背景に照らして明快に説明してくださいました。

もっとも心に残ったのは、「豊かさの質」についての話しでした。アフリカの現状を通して、今の日本の暮らしを考えさせられたように思います。

日本の一人当たりのGDPがおおよそ300万円、アフリカの一人当たりのGDPが国によっては10万円に満たないなか(ここで、数字のマジックに注意!)、市場に出ない(数字に反映されない)経済活動があるため、実際は、アフリカにも(ある意味では日本より)豊かな生活があるというお話しが印象的でした。

先生は、アフリカについて、「正しい知識を持つことの大切さ」を大変ソフトに指摘されましたが、私達には大変強烈な刺激になりました。

3: ヤウ博士とベンジャミンさんからのご便り

去る5月29日にヤウ博士から、東京大学の竹内和彦教授の仕事で調査のために数カ月間外国に滞在して忙しくしており、最近母国のガーナに戻って少し余裕ができてきたとのご便りがありました。一方、ベンジャミンさんは年の始めは母国ナイジェリアへ調査のために一時帰国しており、現在はカナダの大学で博士号取得のための仕上げ作業で多忙であると、5月30日にご便りがありました。



オープンクラスでの記念写真



ヤウ博士からの写真とガーナの子供達の手紙を武内先生へ紹介している様子

★ビッグ・トピックス

- 1: 団体名称の変更
- 2: 東京外国語大学 武内進一教授のオープン講座
- 3: ヤウ博士とベンジャミンさんからのご便り
- 4: 国連大学の卒業式典への出席

4: 国連大学の卒業式典へ、会員6名で参加

ここ6年程は毎年、有志の会員で渋谷にある国連大学の卒業式典に参加しています。修士号や博士号の授与式に参加するだけでも光栄なことですが、世界レベルの学者らの講座やパネルディスカッションなど、世界で活躍する研究者らの声を身近に聞き、その人柄に触れられる貴重な機会を日本にしながら得ています。会員はここでも大きな刺激を受け、日頃の学習に役立てています。